



今日は「成長ホルモン」のお話です。

成長ホルモンは人間が小人から大人へと成長するのに大切なホルモンです。成長ホルモンは夜の睡眠時に多く分泌されます。「寝る子は良く育つ」というのも納得できそうです。

普通は思春期が過ぎて成人すると身長は止まってしまいます。でも、脳下垂体に成長ホルモンを産生する腫瘍ができると、成人になってからも過剰な成長ホルモンが分泌されることがあります。

成人してからも成長ホルモンが過剰に分泌されると、もちろん身長は普通の人よりも高くなります。でも限りなく高くなるわけではありません。手や足、顔の一部が局所的に大きくなってしまいます。これを先端巨大症といいます。

まず、顔です。特徴的な顔をしています。眉毛の部分が張り出してきます。鼻も大きくなります。唇は厚く、皺が深く、そして下顎が突出してきます。また、舌も大きくなりますのでいびきをかきやすくなったり、下顎の突出で咬み合わせが悪くなったりします。

手足も大きくなります。これらの症状は徐々に進行するため自分では気が付かないことがあります。久しぶりに会った友人に、「あれっ？顔かわったね」と言われて気が付くこともあります。そんな時、昔の自分の顔写真と今を比べてみて、指輪のサイズや靴のサイズが大きく変わっていないか確かめてみてください。

顔がかわって、手や足が大きくなるだけなら気にしないで生活していこうと思うかもしれませんが。でも成長ホルモンを産生する下垂体腫瘍の恐ろしいところは別にあります。

このホルモンが過剰に産生し続けると、高血圧や糖尿病などの成人病を併発しやすくなります。成人病は動脈硬化をまねき、脳卒中や心筋梗塞の危険因子となります。脳卒中や心筋梗塞は直接命にかかわりますので、成長ホルモンの過剰な状態を放置しておくとも平均寿命が10年短くなるとされています。つまり、成長ホルモンの過剰な状態は命を短くします。

また、成長ホルモンは正常なものだけを成長させるわけではありません。正常でないもの、つまり腫瘍の発生にも関わってきます。特に多いのが大腸ポリープです。中には大腸癌を合併することもあります。

そのため成長ホルモンを産生する下垂体腫瘍は、単に美容の観点ではなく寿命の観点から治療しなければなりません。

治療は手術による摘出です。主に鼻の穴から摘出します。十分にホルモンが低下しない場合は薬の治療を追加します。

最後に、久しぶりに会った友人に「あれっ？顔変わったね」といわれたら、昔の自分の顔写真と比べてみてください。そして、急に靴のサイズや指輪のサイズが合わなくなっていないか確認してください。